

文章理解 2026 年度学校推薦型選抜前期 出題の意図

第1問は浜田寿美男『「私」とは何か』、第2問は向田邦子のエッセイ『字のない葉書』から出題した。第1問は評論、第2問は随筆という異なる文章種を組み合わせ、論理的な文章を読み解く力と、文学的な文章から書き手の心情や表現の効果を読み取る力の双方を見る構成とした。漢字・語彙の知識、空欄補充による文脈把握、傍線部の内容説明、本文からの抜き出しなど多様な設問形式を用い、本文に即した読解力を評価する出題である。

第1問の『「私」とは何か』は、心理学者である筆者が、グローバル化のもとで人々の生活範囲が拡大する一方、身体を起点とした「等身大の世界」との二重性に向き合うことの意味を論じた評論である。設問については、二重傍線部の漢字の読み書きを問う問題、傍線部の内容説明や空欄補充の選択問題、傍線部に対応する箇所を本文から指定字数で抜き出す問題、筆者の主張と合致する発言を選ぶ問題などを出題し、語彙と文脈の理解、ならびに論旨の正確な読み取りを問うねらいがある。

第2問の『字のない葉書』は、筆まめな父と幼い妹の疎開をめぐる出来事を回想した向田邦子の随筆である。場面の把握は比較的容易で、表現に即して筆者と父の心情を丁寧に読み取れるかが鍵となる。設問については、「訓戒」など語句の意味を問う問題を冒頭に置き、傍線部の表現の説明や効果を問う選択問題、空欄補充問題などを中心に出題した。日常的な情景描写に表れる書き手の感情を、表現の細部に即して読み取る力を見ることをねらいとした。

評論と随筆を一題ずつ配し、論理的な文章と文学的な文章の双方に対する読解力を見る構成とした。漢字・語彙の知識、空欄補充による文脈把握、傍線部の内容説明や抜き出しなど多様な設問形式を用い、本文の表現や論の展開に即して読み取れているかを見る出題である。

文章理解 2026 年度学校推薦型選抜後期 出題の意図

第1問は伊東亜紗『記憶する体』、第2問は北杜夫『おたまじゃくし』から出題した。第1問は論説、第2問は小説という異なる文章種を組み合わせることで、論理的に文章を読み解く力だけでなく、文学的な文章から登場人物の心情や場面展開を読み取る力の双方を見る構成とした。

第1問で取り上げた文章は、視覚障害をもつ西島玲那さんへのインタビューを通して、視覚を失った身体が外界をどのように認識し直していくのかを論じたもの。書かれている内容は具体例に基づいており、論旨の追跡そのものに大きな困難はない。出題にあたっては、筆者の論の展開をしっかり追うことができているか、筆者の考えを正しく捉えられているかを見ることをメインに、漢字の読み書き、抜き出し、空欄補充、傍線部の内容・理由説明等を絡めて出題を行った。

また、第2問では、戦前の時代を背景に、大人と少年が竹の棒を小銃に見立てて戦争ごっこに興じる場面を描いた短編を、全文に基づきつつ一部を省略して出題文とした。淡々とした語り口の中に、子供の空想と大人の認識との隔たりが描かれており、表現の細部を読み解かなければ場面の意味を正確に捉えることは意外と簡単ではない。語句の意味、傍線部の人物像・表現説明を中心に、空欄補充問題を絡めて、問題文の読み取りの精度を見る出題を行った。

課題 2026 年度総合型選抜 人間健康学部健康栄養学科 出題の意図

「食事調査法」を題材とし、健康な者を対象とする食事調査と二重標識水法によるエネルギー消費量との関係を示した図を踏まえ、健康・栄養分野の基礎的な知識と科学的思考力を問う課題として出題した。文献調査による情報整理、図の読み取り、考察を通じて、管理栄養士を志す者に必要な基礎学力と論述力を見ることをねらいとしている。日本語 1,600～2,000 字程度で記述させ、引用・参考文献の明示も求めた。

食事調査法の種類について、文献等を用いて自ら調べ、各調査法の概要、長所と短所、実施上の留意点を整理して記述する課題である。秤量記録法、24 時間思い出し法、食物摂取頻度調査法、陰膳法など、目的に応じて使い分けられる手法の特徴を体系的に把握しているかを確認するとともに、出典を明示して正確にまとめる学術的態度を見ている。

健康な者を対象とした 100 の研究における BMI とエネルギー摂取量／エネルギー消費量の比の関連図から、食事調査によるエネルギー摂取量の過小・過大申告の傾向を読み取り、考察する課題である。課題 1 で整理した各食事調査法の特徴と関連づけて、BMI の増加に伴う申告傾向の変化やその要因を科学的に論じる力を問うている。あわせて、図表の読解力と論理的考察力を評価する。

筆記試験 2026 年度編・転入学者選抜 I 期 人間健康学部健康栄養学科 出題の意図

本試験は、人間健康学部健康栄養学科で学ぶうえで基礎となる英語読解力と専門知識を、総合問題として一体的に問うものである。栄養素としての脂質を題材とした英文読解、生成 AI をめぐる社会的論点を扱う小論文、公衆栄養活動およびグルコース代謝の図解問題、ならびに食品学・調理学・給食経営管理・人体の構造と機能・公衆衛生に及ぶ小問集合を組み合わせ、英語力・科学的思考力・記述力・専門基礎知識を測ることを目的として出題した。各大問の出題意図は以下のとおりである。

脂質 (fats) の栄養学的意義と飽和脂肪酸・不飽和脂肪酸の性質を扱った英文を題材に出題している。脂溶性ビタミン (A・D・E・K) の知識、エネルギー産生栄養素 1 グラムあたりの kcal、必須脂肪酸であるリノール酸・リノレン酸の役割、LDL コレステロールと心血管疾患リスクなど、専門基礎と結びついた語彙・内容理解を問うている。空所補充・並べ替え・和文記述・抜き出しを組み合わせ、英文を正確に読み解く力と要点を日本語で要約する力を確認している。

生成 AI の急速な発展がもたらす社会的利点とリスクを取り上げ、今後求められる規制やルールについて 300 字以内で論じる小論文である。教育・仕事・芸術・報道といった具体的領域や、フェイク情報・著作権・プライバシーといった論点を踏まえ、利点とリスクを対比的に整理する力、論拠を伴って自らの主張を構成する力、ならびに字数の制約のなかで簡潔にまとめる記述力を見ている。

公衆栄養活動の戦略を空欄補充形式で問うている。一次予防に重点を置く考え方、国民全体を対象とするポピュレーションアプローチと危険因子保有者を対象とするハイリスクアプローチの対比、ならびにメタボリックシンドロームに着目し医療保険者に実施が義務づけられた特定健康診査・特定保健指導の制度的位置づけまでを扱い、公衆栄養学の基本枠組みの理解度を確認している。

問 10 はグルコースの代謝経路を示した図を手がかりとする出題で、解糖系から始まる代謝の流れを総合的に問うている。ピルビン酸・アセチル CoA といった中間代謝物、嫌氣的代謝でのエタノールおよび二酸化炭素の生成、クエン酸回路 (TCA 回路) と電子伝達系の役割、ならびに ATP 合成の駆動力となる水素イオン (H^+) の濃度勾配についての理解を見ている。あわせて、生化学の用語と代謝マップを結びつけて説明する力を確認している。

健康栄養学科で学ぶ専門基礎の広範な知識を 20 題の択一式で問うている。食べ物の嗜好性、調理システム、給食業務委託、食品変質と微生物性食中毒など食品学・給食経営管理の知識、鉄欠乏性貧血や抗酸化栄養素・コレステロール代謝など栄養学の知識、細胞小器官・胃の構造・酸塩基平衡など人体の構造と機能に関する知識を扱う。さらに治療食、低栄養とリフィーディング症候群、

SDGs、部位別がん死亡率、公害と原因物質、栄養アセスメント、骨格筋の生理、オペラント条件づけおよびソーシャルサポートの類型まで取り上げ、各領域の理解度を総合的に測る出題とした。

英語読解・小論文・専門基礎の三領域を一体の総合問題として構成し、英文を正確に読み取る力、社会的課題について論理的に意見を述べる力、ならびに栄養学・食品学・人体科学・公衆栄養に関する基礎知識について、編入学・転入学後の学修に必要な水準を備えているかを確認するねらいで出題した。

人間健康学部健康栄養学科 2026 年度編・転入学者選抜Ⅱ期 筆記試験（総合問題）出題の意図

人間健康学部健康栄養学科の編・転入学者選抜Ⅱ期では、学科の専門領域を学ぶうえで前提となる基礎学力を、総合問題として一括して問うた。具体的には、栄養と健康に関する英文読解力、社会的課題に対する論述力、栄養教育で用いる行動科学モデルの理解、調理学・食品衛生・生化学・基礎栄養学・臨床栄養学・公衆栄養学にわたる専門基礎知識の習得度を、90 分という限られた時間のなかで幅広く測ることを目的として出題した。各大問の出題意図は以下のとおりである。

問 1～7 では、アメリカの全国学校給食プログラム（National School Lunch Program）を題材とした英文を用い、学校給食が児童の身体的・精神的健康および地域農業に果たす役割を読み取らせた。動詞の語形変化による空所補充、指示語の特定、関係代名詞を含む英文和訳、本文情報に基づく英語の設問に日本語で答える問題、書き抜き、段落要旨の 25 字以内要約、内容真偽選択を通じて、栄養分野の英文を正確に読み解く語彙力・文法力・要約力を評価する出題とした。

問 8 では、食品ロスを題材として、150 字以内で論述させた。食品ロスが発生するおもな原因を環境・経済・倫理の観点から把握しているか、賞味期限管理や食べ残しといった具体的要因に踏み込んで記述できているか、さらに一人ひとりが日常生活で取り組める対策を具体的に提示できているかを評価する出題とした。社会的課題を栄養学の視点でとらえ、自身の言葉で論理的に表現する力を測ることをねらいとした。

問 9 では、栄養教育論で扱う行動科学に基づく理論のうち、生態学的モデルとオペラント条件づけの 2 理論についての理解を空所補充形式で問うた。生態学的モデルでは、健康行動が個人・人間関係・組織・地域・政策といった多層の要因から影響を受けるという構造、オペラント条件付けでは、行動の直後の結果が行動頻度を変化させるという基本概念を正確に理解しているかを確認する出題とした。

問 10 では、健康栄養学科で学ぶ専門基礎科目の理解度を、20 問の択一式で総合的に問うた。調理学、食品衛生、栄養学、生化学、生理学、公衆栄養学、法規など、管理栄養士養成に不可欠な基礎分野を横断的に理解しているかを問うた。単なる知識の暗記ではなく、浸漬や揚げ物の調理特性、エネルギー代謝や酵素反応、神経・血液の生理、食中毒や食品添加物の理解、栄養ケアマネジメントや制度の正確な把握など、実践に直結する判断力を確認することをねらいとした。

本試験は、編・転入学を志望する受験生が健康栄養学科の専門課程に円滑に接続できる基礎学力を備えているかを総合的に評価する出題構成とした。英文読解では栄養と健康に関する論説を正確に把握する力、論述では社会的課題への思考力と表現力、専門基礎では栄養士・管理栄養士養成課程に必要な知識の幅と正確さを見ることをねらいとした。